

---

# 不可解について

霧島小鐘

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不可解について

### 【Nコード】

N8926Y

### 【作者名】

霧島小鐘

### 【あらすじ】

ある日突然、マンホールの上で変死体となった飼い猫。興味本位で「僕」

はその秘密を探っていく――

たとえば、マンホールの上で自分の家の猫が死んでいたとして、人々は不思議に思うのだろうか。

実際、目の前でそんな光景があったので、こんなゴミみたいな疑問が浮かんでしまった。

でも、この思考がゴミであっても捨てる気はなかった。

考えてみる。たとえば他の人達はどう思うんだろう、から始めてみた。

その他大勢の人々に感情移入してみたが、大体は死に場所より猫が死んだことに注目しただろう、と思われる。

死に場所が変だ、という発想は出ないはずだ。

みんな泣いて、

「さよなら、天国でも元気で  
つて具合に。」

僕の場合は、猫にそんな愛情は無かった。水も餌も与えた覚えはない。世話は、溺愛してた姉が全部やっていたはずだ。猫の名前もミケだったかタマだったか、あ、ソラだった。

生憎、高校生の僕には、青春を楽しむことに気を取られ、猫に向ける気、なんてものはなかった、もったいなくて。

早い話、この猫に関しては何も知らない。

だから、この猫がなんでマンホールで死んでいるかなんて知らない。

——終了。

いや、これで終わっては考えた意味が無い。

今更ながら、猫に興味を持たなかったことに後悔した。わりと真面目に後悔したのは久しぶりだった。

後悔したことが無いのは、僕が決断力があるからではない、損得勘定を始めからしてないからだ。

僕は損得を初めて考え、失敗したのだ。

失敗したとなると、僕の考えは次のステップに移る。

「この死体、どうしよう。」

呟いた後、殺人者みたいな言葉だな、って思った。本当に呟くかは知らない。

そうだ、この猫は野良じゃない、回収しなければ。姉にも知らせたほうがいい。

僕は、家に帰り、回収する準備をした。

姉は、僕よりも先に帰っていた。でも、予想はしていた。なんせ同じ学校だ。僕が考え事に耽ってた分、早く帰っては来れるだろう。

「なあにしてんのー」

やる気が無く、間延びした声。興味がないのが一瞬で分かった。

理由もなく、ほんの少しだけむかついたので言っただけだった。

「ソラの死体を回収する準備を。不本意ながら。」

まさに鳩が豆鉄砲食らった、という顔だったが、笑える顔じゃなかった。というより、自分もそんな顔を

してしまっただ。さすがに言い過ぎたと思った。

ああ、泣き出した。最初は呻くような声だったが、一呼吸入れた後、それがスタートの役目だったのか、急に大きな声になった。

「何ですよ…！何で…」

僕を責めてるような、静かで激しい口調だった。実際、ふざけたよ  
うな僕の言葉も気に入らなかつただろう。  
流石にバツが悪くなった。

「…ごめん」

僕は聞こえているか分からない謝罪をした後、逃げるように玄関を  
出て、猫の元に行った。

損得勘定をして、失敗。

従って、後悔したのは、今回で二度目である。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8926y/>

---

不可解について

2011年11月26日21時51分発行